

広島県医師連盟ニュース

2013.5.24
第24号
定価 1年400円
(但し県医連会費を含む)

広島県医師連盟ニュース
発行所
広島県医師連盟
☎733-8540
住所 広島市西区観音本町1-1-1
TEL 082(297)2525
FAX 082(297)2535

広島県医師連盟執行委員会 地域医政活動推進委員会 合同会議

第23回参議院議員通常選挙に向けた 「羽生田たかし先生を激励する会」開催!

2枚目の男! 「羽生田たかし」の高位当選を目指す



平成25年4月7日(日)午後6時、ホテルグランヴィア広島において、標記合同会議を開催した。開会にあたり平松恵一広島県医師連盟委員長は、「医療を取り巻く環境が悪化する中で次世代の国民医療を確保するためにも日医連を代表する候補の擁立を行わなければならない」と挨拶した。

次に羽生田たかし日本医師連盟副委員長が決意表明の言葉を述べ、高杉敬久日本医師連盟常任執行委員など関係者が応援演説の言葉を述べ、最後に渡邊弘司広島県医師連盟常任執行委員が「がんばろう!」で「2枚目の男羽生田たかし」の必勝を期した。

平松 恵一

広島県医師連盟委員長 挨拶

今日は、日曜日の夕方にも関わらず、広島県医師連盟執行委員会合同会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。



かし先生をお迎えいたしましたし、激励する会を開催することになりました。

日本医師会の医療政策すなわち国民医療の確保、皆保険制度の維持、それを実現させていくためには、政権与党から候補者を擁立すべきであるとの考えのもとに羽生田先生を組織内候補として擁立することが決定され、われわれ全国の医師連盟は賛同して、羽生田先生は自由民主党公認となりました。

現在、日本のすばらしい医療制度を守っていくことは、われわれの責務でもございます。これからの医療を守るためにも今、医療に従事しているわれわれが活動をしなければなりません。また、将来、医療に従事する方々のために、今、頑張らなければならぬと考えております。羽生田先生が多くの皆様のご支援をいただくことで「医師会の

力」で国民皆保険制度を守っていきたく思います。皆様には、ぜひとも羽生田先生のご支援にご協力をいただきませうようお願い申し上げます。後ほど、羽生田先生からは、決意表明をお願い申し上げます。皆様におかれましては、直接、羽生田先生とのお話の場を設けていますので、ご意見をお聞きいただきたいと思っております。羽生田先生は、東京医科大学のご出身でございます。広島県にも多くの先輩、後輩がおられるとお聞きしております。ご支援のほどお願い申し上げます。開会に当たりまして、私のご挨拶とさせていただきます。

羽生田たかし

日本医師連盟副委員長



今日は、広島県医師連盟執行委員会並びに合同会議ということで、日曜日にも関わらず、大勢の方にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ご承知のように1月15日に日本医師連盟執行委員会がありまして、日本医師会からの代表議員がいなくて、大変な問題であるとの議論になりました。6年前に武見敬三氏が落選し3年前に西島英利氏を含め3人を支援推薦という形で3人も共倒れになりました。6年間代表がいなかった状況の中で皆様方も何か違和感もあり、医師会が少し軽視をされていると抱いておられたのではないかと思います。そういった中で、3連敗は許されないといいながら現執行部から誰を出馬するかとなり、私にたどり着いたという状況になりました。

今は、皆さんご承知のようにエパデールがOTC化された結果、これを薬局から特定健診の結果によって薬剤師が処方できるようになっています。今後、薬局で血液検査、血糖検査まで血圧を計って慢性疾患いわゆる生活習慣病の早期治療は、薬局で行う方向が打ち出されているわけです。現在、地域を中心には、日本医師会からの勉強会等々で反対をしている最中であり、それぞれの団体から出ている国会議員が絡んでいる

日本医師会といたしましては、医療機関が課税事業者になることが、第一であり、患者さんの負担を増やさないためには、軽減税率を取り入れるべきと考えます。

また、軽減税率内でも最大の軽減税率は、0税率課税であり、課税事業者になった上で0税率は、医療機関の先生方が仕入れた薬などは、医療機器の消費税を患者さんからいただいたという形で相殺して、還付されることになりま

す。昔で言った、租税のようシステムを作らなければいけないと思います。政治の場で決めることで、地域で決まるわけがありません。

しかし、中医協の中に調査委員会ができたこと。そして自民党の税調の中に消費税を議論しようという体制ができました。これは前進であります。

今、ヒアリングを行っていますが、日本医師会は、先生方の負担をできる限り軽減できる形、患者さんへの負担が少なくなるように意見を出していきたい。課税事業者になること、そして軽減税率の最大の形である0税率化とする要望は未だに降ろしていません。これをわれわれの要望として続けております。実現

は、これからの問題ですが、われわれの要望は変わっていません。そして、信頼関係を基盤とした医療環境を作りますと書きました。この意味は、2006年に福島の産婦人科の医師が逮捕され、警察が医療現場に来て医師を逮捕する事件がありました。でもない話だと思っております。医療安全を作っていくことが基本であり、そのため医療事故調査制度の検討が行われています。警察への届け出も無くす第一歩であると思っております。

厚生労働省は、先ほどの生活習慣病の薬も、健康局は、1に運動、2に食事、3に禁煙、最後に薬という表を出しています。ところが医薬食品局は最初に薬、その標語が、同じ厚生労働省でも違っています。

医療提供者が安心して医療提供できる体制が、国民が安心して医療を受ける体制になるわけで、その結果、医療を提供した医師と、医療を受ける患者さんとの信頼関係を築くこと、それが基盤であると思っております。

「すべての人にやさしい医療を」を一言で言ってもたくさん問題があります。しかし、

今の国会には専門家がいなと思います。各団体が国会議員をたくさん出しています。れど、自分たちの職域を守るために一生懸命仕事をして、ます。その人たちが集まって、日本の医療提供はどうあるべきかといった議論がされてないのも事実でございます。これができるのは日本医師会しかできないと思っております。日本医師会から議員を出して、その人達がプロとして意見をまとめていかなければいけません。

私は医療関係職種を担当させていただきます。各団体のつき合いもあります。その意味で、国会の中でそれぞれのプロが集まった上で日本の医療がどうあるべきか、論じたいと思っております。

今、私が日本医師連盟、日本医師会推薦で国会に出馬を決意させていただきますが日本医師会推薦だけでなく、私は医療界の代表として国政の場で働かせていただきたいと思っております。ぜひ皆さま方の絶大なご支援をいただきまして、また、できるだけ多くの票で当選をさせていただきます。

「すべての人にやさしい医療を」を一言で言ってもたくさん問題があります。しかし、

「2枚目の羽生田」と覚えていただくと一番忘れないのかなと思います。

高い席でございますが、私の決意表明と皆さま方へのお願いのご挨拶とさせていただきます。

高杉 敬久 日本医師連盟常任委員



日本医師会の理事会室には、参議院選挙まで後何日と、羽生田先生の席の後ろに張っております。今執行部では全力を挙げて羽生田先生を応援しています。行く先々、或いはシンポジウムでも、「日本医師会の公認の羽生田たかしをどうぞよろしく願います」と言っています。本人も頑張っており、医師会では羽生田先生をよく知っています。しかし、政治に興味がない、あるいは医師会の活動に興味

のない方は分かりません。代わりに私たちが来ましたとお伝えしますが、羽生田先生は、3代の会長に任じて、揺るぎのない安定した主張をずっとお持ちでございます。その思いが今回の立候補に繋がったのだらうと思っております。

羽生田先生のお父様は衆議院議員の代議士でございます。やはり羽生田先生にも政治家のDNAが潜んでいたのかなと思います。

私は執行部2期目でございますけれども、この2期の間に、民主党政権で実に3回も総理が変わりました。

東日本大震災では、羽生田先生は先頭に立って、東北の各地に訪問して、支援物資を送り、地元の苦境を吸い上げて動かれました。この行動力は本当に頭が下がります。

また、2025年問題で団塊の世代が後期高齢者に入ります。今の政治はどうなるでしょうか。厚生労働省は介護と医療を2025年に向かっけてやると末端を見ている政策が次々と出ております。日本医師会は、たくさんの方の世話をしています。東京医大だけではなく、私は広大の方もぜひとも応援していただきたいと思っております。広仁会の新本会長にもぜひ推薦文を出して欲しいと思っております。

本人も頑張っており、医師会では羽生田先生をよく知っています。しかし、政治に興味がない、あるいは医師会の活動に興味

す。今、日本で最大の圧力団

体は、日本医師会だと言われ

ますけれども、医師の一人一人の気持ちを活用できるかという

ことでは、われわれも代表を出さなければいけません。

先ほど3連敗という話が出ましたが、今回、武見先生は東京で出馬させていただきます。全国では羽生田先生を高位当選させて、安心できる日本の医療を作っていく

ましょう。先程「2枚目の羽生田」と言われましたけど、私は非常によい表現だと思います。1枚目は広島県代表、2枚目は、「羽生田」と書いてください。今、鴨下一郎先生が医者としては頑張ってくれています。しかし、医療界のバックアップはもう一つ必要だと言われております。沈み行く日本の医療ではなく、再生する日本の医療にしていく

再生する日本の医療にしていく

しました。

広島県を挙げて、羽生田たかし先生を高位当選させましょう。あと10日を頑張ってくださいと思います。私も中

四国が代表であります。月末来週は山口に参ります。月末には岡山に参ります。

その間にお呼びがかかればどこでも参ります。羽生田先生一人では回りきれませんが、地区医師会にお邪魔して、地区医師会にお邪魔して一人一人の票を起こそうと活動して参ります。どうぞよろしくお願いたします。

望月 昭 広島県医師連盟副委員長



私達広島県医師連盟が一致団結して先生の大勝利に向けて、必死で支援する決意の言葉を述べたいと思っております。政治の力で、私たちの医療が変化する認識が非常に薄いと思

りいただいた先生方もよく理解していると思いますが、私たち会員は、毎日の保険診療が政治の力に影響しています。日本医師会、厚生労働省と非常に綿密な協議の上で、中医協等の審議の中で日々決定され、その結果を国民が非常に興味を持って注目しています。これらのバランスの上で日本の保険医療が成り立っていることをまず皆さんに理解していただければと思います。

しかし、後4ヶ月でございませぬ。皆様、明日から各地元に戻られ、全会員一人一人が確実に投票に行く努力をしましょう。

先程お話がありました、日本のすばらしい国民皆保険制度を堅持することです。そのため、私たちが冷静に頑張らなければいけません。高いレベルの医療を安価に受けられる保険制度、これを送るために羽生田先生を国政に送り、頑張っていたかなければならないのです。市場原理主義、TPPの問題が非常に重くのし掛かっております。

羽生田先生は、12年間と長きにわたって常任理事、副会長をご経験された貴重な経験と人脈もあります。また、厚生労働省、消防庁、文部科学省、内閣府のたくさんの委員

会で貴重なご経験を十分に生かしていただき、われわれの理想とする医療がいつまでもできるように、また、国民と共に歩む日本医師会の理想の姿をこれから求めていきましよう。

私たちもこれから4ヶ月必死で頑張ります。皆様も羽生田先生の大勝利に向けて、ご支援のほどお願いいたします。私の言葉といたします。皆さん頑張りました。

選挙に出て国会議員になる方は、先を見る目、ぶれないことが必要だと思います。先を見る目といえますと、羽生田君は「神田川」の傍で暮らしていました。

5、6年後に「南こうせつ」の「神田川」の歌が大ヒットして、その詩の内容がまるで羽生田君の事を歌っていたと思えます。

この歌が流行るのが分かってきたかのような暮らしぶりで、これも一つの先見の目としました。

羽生田先生の先を見る目、ぶれないことは、これ以上国会議員にふさわしい人間はいないと思います。地域の方、職員の方、家族の方、皆さんに一票でも多くお願いいたします。私ももちろん、外来の中にこの写真を貼っていますけれど、患者の方にも声をかけています。そういう姿勢で皆さんもやっていたら、少くとも票が増えると思えます。ですのでよろしく願います。

「がんばろうー！」

「がんばろうー！」

広島県医師連盟常任執行委員の渡邊でございます。比較的若い私が、同窓だということ、「がんばろうコール」をさせていただきます。羽生田先生が講演で話をされたように医師会は少し軽視されているところがございます。そこで羽生田先生が組織内候補として立候補されました。

羽生田先生におかれましては、単に当選されるのではなくて、高得票上位当選をしていただき、日本医師会の良い所をぜひお示ししたいと思います。

「がんばろうー！」

「がんばろうー！」



荒瀬 秀賢
東京医科大学同窓会
広島県支部幹事長



渡邊 弘司
広島県医師連盟常任執行委員



荒瀬先生は、全国と一緒に

今回の、大きな得票を目標

今回の、大きな得票を目標

広島県医師連盟収支決算報告書（平成24年度）

自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日

収入の部		支出の部	
	(円)		(円)
個人負担金(※)	38,430,000	政治活動費	51,697,000
寄付	17,224,000	組織活動費	3,137,000
交付金(日医)	15,824,000	選挙関係費	8,000,000
衆議院総選挙活動資金交付金(日医)	1,400,000	その他の事業費	0
その他寄付	0	寄付・交付金(日医負担金等)	40,560,000
その他の収入(預金利息・手数料)	11,111	事務所費	3,043,851
小計	55,665,111	旅費	680,200
前年度繰越金	34,745,227	交通費	789,448
合計	90,410,338	搬送費	64,288
		通信費	702,000
		印刷費	773,675
		消耗品	34,240
		委託費	
		小計	54,740,851
		前年度繰越金	35,669,487
		合計	90,410,338

(※) 個人負担 21,000円×1,830名=384,300,000円

貸借対照表

(平成24年12月31日)

1. 資産の部		
(1) 流動資産		
(イ) 現金預金	35,669,487	普通預金
広島信用金庫	35,669,487	
(ロ) 未収入金	0	
流動資産合計	35,669,487	
2. 資本・負債の部		
(1) 流動負債		
未払金	0	
流動負債合計	0	
3. 差引正味財産	35,669,487	